

## 夏季水田畦畔に発生するナガエツルノゲイトウに対する除草剤の除草期間

### [要約]

夏季の水田畦畔に発生するナガエツルノゲイトウに対し、グリホサートカリウム塩液剤は 28 日間、フロルピラウキシフェンベンジル乳剤及びグルホシネート液剤は 18 日間、塩素酸塩水溶剤は 12 日間の除草期間を得られる。

茨城県農業総合センター農業研究所

令和6年度

成果  
区分

技術情報

### 1. 背景・ねらい

水田難防除雑草ナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）は、水田に侵入後、まず水口付近や畦畔に定着し、畦畔から本田に侵入することが多い。しかし、水田畦畔に発生するナガエに対する除草剤の除草効果は明らかにされていない。そこで、水田畦畔に使用可能な除草剤数種のナガエ除草期間を明らかにする。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) グリホサートカリウム塩液剤（商品名；ラウンドアップマックスロード）は散布後 28 日程度ナガエ及びイネ科雑草、広葉雑草の再生を抑制できる（図 1、図 2）。
- 2) フロルピラウキシフェンベンジル乳剤（商品名；ロイヤント乳剤）及びグルホシネート液剤（商品名；バスタ液剤）は散布後 18 日程度ナガエの再生を抑制できる（図 1、図 2）。
- 3) 塩素酸塩水溶剤（商品名；クロレート S L）は、散布後 12 日程度ナガエの再生を抑制できる（図 1、図 2）。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 除草剤を散布する際は、草丈 30cm 以下とし、薬液が雑草の茎葉に十分かかるように散布する。フロルピラウキシフェンベンジル乳剤の散布後は、散布後 18 日目頃から特にイネ科雑草の再生及び増加が目立つので注意する。
- 2) 農業用水を介したナガエ断片の水田への侵入を防ぐため、給水栓口にネットを設置する。また、畦畔のナガエの発生量を増やし、拡散させる可能性があるため刈り払いによる除草は避ける。なお、ナガエは多年生雑草のため、発生圃場では秋冬季防除も含め複数年の防除が必要であり、本田における防除体系については、検討を要する。
- 3) 試験に使用した農薬は、令和 7 年 3 月 12 日現在、「水田作物（水田畦畔）」または「水稻（水田畦畔）」の「多年生雑草」または「一年生及び多年生雑草」または「一年生及び多年生広葉雑草」に登録のある薬剤である。

#### 4. 具体的データ



図1 水田畦畔における各除草剤の除草効果発現状況（令和6年）

※試験圃場：河内町生板（細粒質普通灰色低地土）の水田畦畔にて、自然発生のナガエを対象とした。1.6 m<sup>2</sup>（1m×1.6m）/区、2反復。

※除草剤散布日は令和6年7月5日。散布量は登録の範囲内で最大量とし、散布液量は100L/10aとした。

※図中の太線囲みはナガエ除草効果発現期間の晩限を示す。

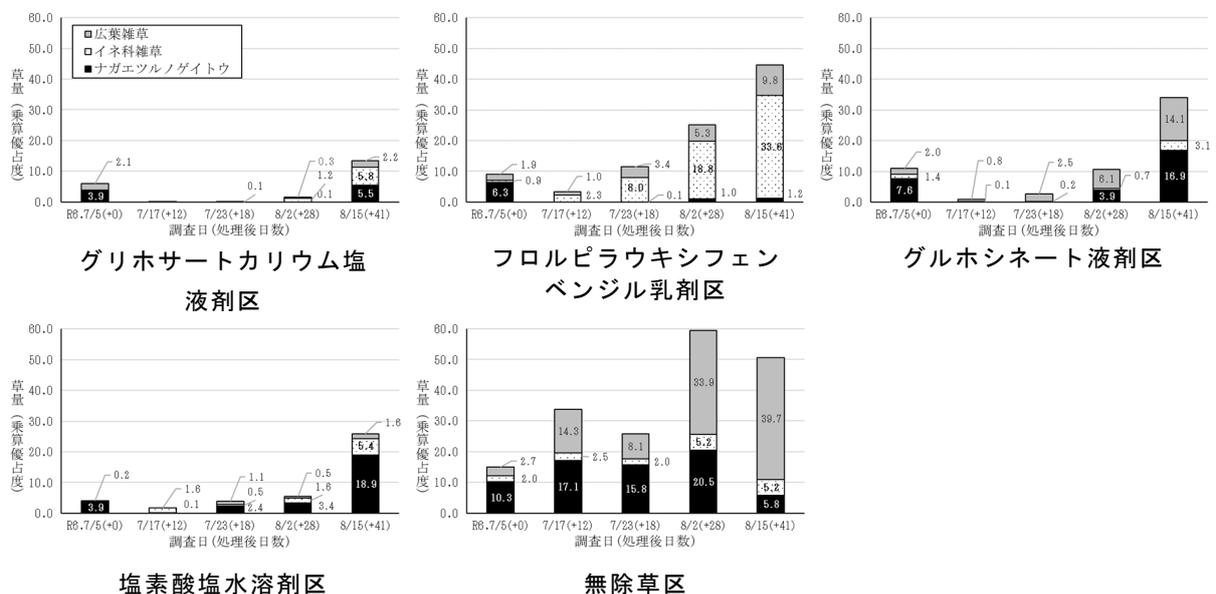


図2 水田畦畔における各除草剤散布後の草量の推移（令和6年）

※除草剤散布日：令和6年7月5日。散布直後の強い降雨は観測されなかった。

※評価方法：無除草区において、ナガエ及び調査期間に発生が見られた主な草種を評価対象にした。草種ごとに乗算優占度（「被度（m<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>）×草高（m）」で算出され、乾物重と相関が高い。本成果では「草量」として扱う。）を算出し、残草程度を評価した。被度調査は遠観による。

※イネ科雑草：エノコログサ、オヒシバ、メヒシバ。広葉雑草：アオビユ、エノキグサ、カヤツリグサ。

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

水田難防除雑草ナガエツルノゲイトウの防除技術開発・令和5年度～令和8年度・作物研究室、水田利用研究室